

商学部 AI・データサイエンス教育プログラム（ビジネス応用基礎）自己点検・評価報告

商学部 AI・データサイエンス教育プログラム運営委員会

2025.3.26

1. 自己点検・評価の実施

「商学部 AI・データサイエンス教育プログラム（ビジネス応用基礎）」について、2022 年度より、応用基礎レベルとして実施している。2024 年度は、当プログラム 3 年度目である。

本教育プログラムは、商学部で開講される専門教育科目を活用しており、商学部の全学生が履修可能なプログラムとなっている。そのため、幅広い学生がデータサイエンスの基礎知識を習得し、ビジネス分野での活用を見据えた学習を行う機会を得られる点が特徴である。

商学部 AI・データサイエンス教育プログラム運営委員会は、2024 年度の履修状況を参考に、履修者数向上に向けた計画、学生への周知方法、授業運営上の工夫等について種々意見交換を行い、自己点検・評価を実施した。

【商学部 AI・データサイエンス教育プログラム運営委員会の開催状況】

日時：2025 年 3 月 26 日（水）15：00～15：40

場所：関西大学千里山キャンパス第 2 学舎第 2 号館商学部会議室

出席者：矢田、高井、村上、李、藤井（教務）、今村（教務）

2. 評価の基準について

下記の 3 段階で評価する。

A：取り組みの内容に特筆すべき点があり、十分に実施できている

B：問題なく運営されている

C：取り組みの内容について改善の必要が認められる

3. 自己点検・評価の結果について

本教育プログラムの 2024 年度の履修状況を昨年度と比較した結果、以下のような傾向が見られた。

まず、「経営情報論」において履修者数が 81 名増加し、全体で 667 名の履修となった。この増加の要因としては、データ活用に関する社会的な関心の高まりや、プログラムの認知度向上が考えられる。また、授業運営において履修しやすい時間帯への調整が行われたことも影響した可能性がある。

次に、今年度新たに新設した科目「データサイエンス」は 35 名の履修者を獲得した。昨年度まで開講されていた「データ・マイニング論」の履修者数（29 名）と比較すると、若干の増加が見られる。このことから、データサイエンス分野に対する学生の関心が高まりつつあることがうかがえる。一方で、同科目の履修者数が他の科目と比べて少ないため、さら

なる履修者の拡大を図るための施策が必要であると考えられる。

さらに、「経営情報論」の授業に関する受講後アンケートにおいても、添付資料のように高い評価が得られた。

以上の内容をもとに、当委員会では全体的な評価として以下のように判断した。

【評価結果】B：問題なく運営されている

現在のプログラムは一定の成果を上げており、特に「経営情報論」の履修者増加や「データサイエンス」の新設が好評であることに加え、受講生の満足度も高いことが確認された。

4. 改善・進化に向けた対応について

本プログラムの更なる充実を図るため、履修者数の増加に向けた取り組みに関して、運営委員会において活発な意見交換が行われた。その結果、以下のような改善案が上がった。

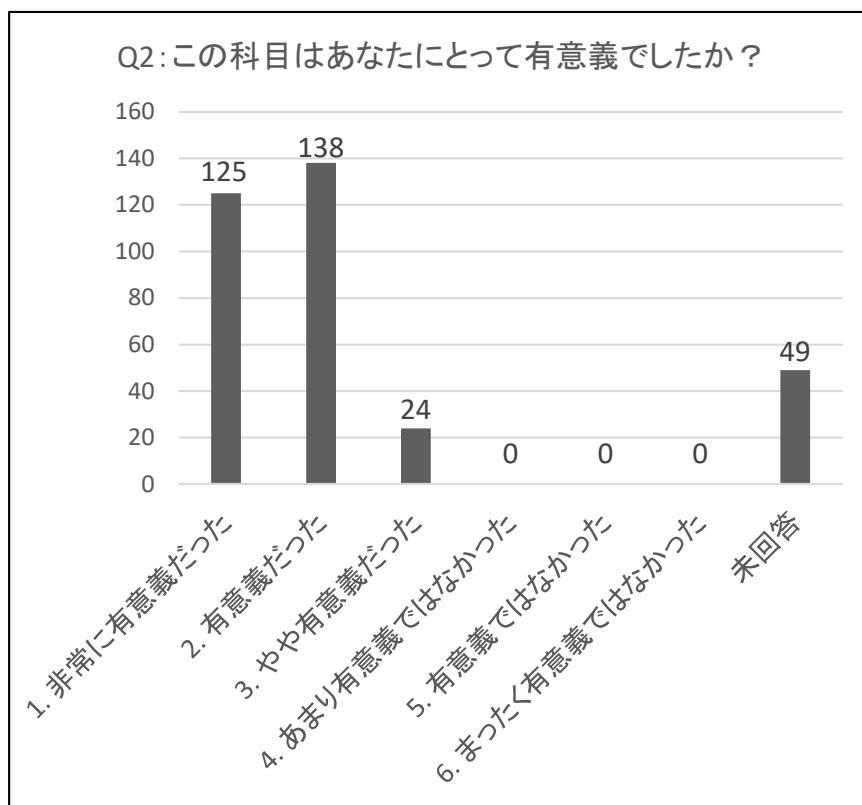
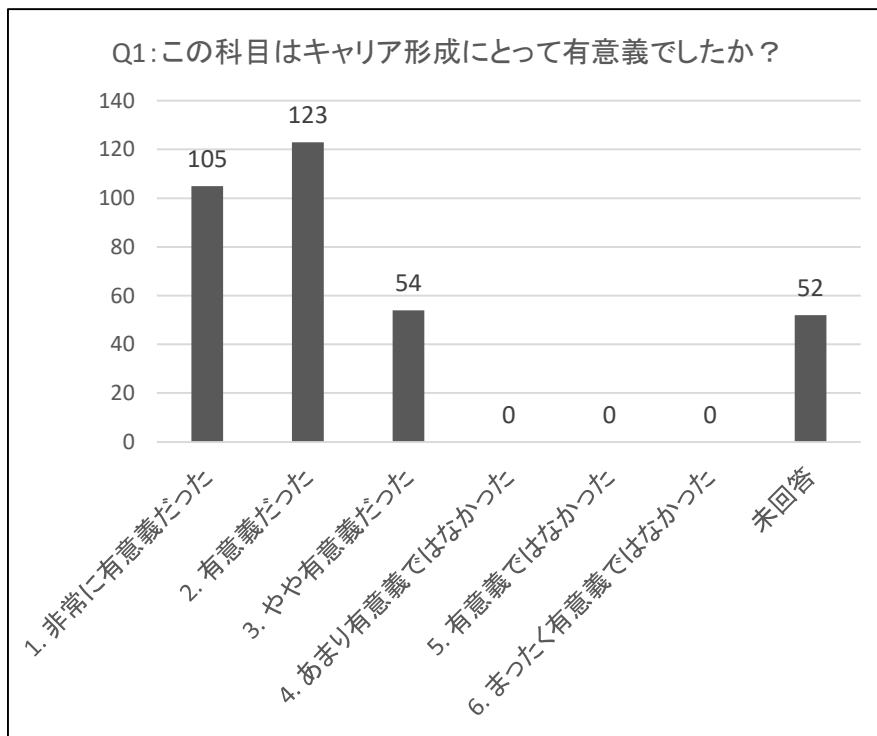
- 学部のホームページなどでの情報発信を行う。
- インフォメーションシステムなどを使って学生への周知を図る。
- 「マーケティング・サイエンス」及び「マーケティング・リサーチ」科目の再開については、学生のニーズや企業側の要請などを踏まえ、今後の検討課題とする。

まとめ

以上のような改善策を実施することで、本教育プログラムのさらなる発展を図る。特に、より実践的な学びの場を提供することが重要である。今後も、学生のニーズや社会の変化を踏まえながら、プログラムの進化を継続的に進めていく。

以上

【添付資料】



Q3: 今後「AI・データサイエンス」に関する科目が開講された場合、受講したいと思いますか？

